

日本熱物性学会 2008年第2回役員会報告 (HP版)

日時：平成20年4月26日(土) 13:00~17:00

会場：キャンパス・イノベーションセンター5階リエゾンコーナー501

主な議題：

1. 会長挨拶

大西会長より開会の挨拶があり、理事会で必要な議論を速やかに行い、役員会で少し時間を作ってこれからのことを議論したく御協力頂きたいと述べられた。

2. 前回議事録確認

長坂事務局担当より前回議事録について説明が行われた。

3. 覚書の一部改定について

長坂事務局担当から覚書の一部改定について説明があった。現事務局の場所の問題ならびに紙媒体資料の必要性等を検討し、会誌および論文誌を必要部数残して処分し電子媒体として残す方向で進めたいと説明があり、覚書に論文集の売却、会誌の処分、創立25周年記念出版本「さーもふいじしすと」の料金についての文章を追加することが承認された。電子媒体化については見積もり等により追々議論していくことに決定した。熱物性シンポジウム論文集の在庫数がゼロ冊の年度があるので、事務局にはせめて一冊でも保管するようお願いしたい旨の意見があった。また、日本で開催されたアジア熱物性会議論文集についても同様に紙媒体として最低一冊は保管し、電子媒体化することに決定した。

4. 第29回日本熱物性シンポジウムについて

渋川実行委員長より第29回日本熱物性シンポジウムについて説明があった。OS10のオーガナイザーは上利泰幸先生(大阪市工研)のみをお願いすること、OS11のオーガナイザーは田澤真人先生(産総研)ならびに大村高弘先生(ニチアス)の両名をお願いすることにした旨報告があった。第29回日本熱物性シンポジウム実行委員会では竹中はる子先生(日本女子大学名誉教授)、棚澤一郎先生(東京大学名誉教授)ならびに長島昭先生(慶應義塾大学名誉教授、横浜国立大学)の3名に顧問をお願いしている。特別講演は“女性研究者マルチキャリアパス支援モデルについて”と題して小舘香椎子先生(日本女子大学)に依頼した旨の報告があった。予算案の概要について説明があり、100名の事前登録、総参加数200名を見込んでいること等の説明があった。また、講演申し込み締切りが6月20日であり、プログラム編纂委員会を6月28日に予定しているため、申込期日は厳守である旨をホームページに記載し、締切り厳守とすることが述べられた。共催・協賛学会については概

ね受諾回答があり、今回新たに日本調理科学会と日本食品工学会が受諾回答している旨報告があった。優秀プレゼンテーション賞については、本年度は例年より OS 数が多くプログラムを組むのが非常に難しいために、後日発表・表彰とするようにしたい旨の説明があった。また、早い時期に受賞者を決定し、ホームページ上で氏名を発表することに決定した。

5. 第 30 回日本熱物性シンポジウム準備状況

高橋前副会長より第 30 回日本熱物性シンポジウムの開催要領について説明があった。開催日を 2009 年 10 月 28 日（水）～30 日（金）の平日とするが、時期的に観光客が増えることを懸念しており、大学生協に宿を予め手配することが承認された。会場は、大会議室（100 名収容）× 1、小会議室（50 名収容）× 2、小ホール（500 名収容）等を完備する「伝国の杜」を予定しており、懇親会は隣接するレストラン（200 名収容）で行うこと等の説明があった。実行委員が少ないために皆様の御協力をよろしくお願ひしたいとのこと。

6. 各種委員会報告

編集委員会

吉田編集担当より熱物性誌 Vol.22 No.2（5 月号）について説明があった。4 件の論文を掲載する予定であり、投稿論文数については一月に一件程度であること、大西会長の解説「科学衛星の熱設計の歩みと熱物性研究について」や特集「建築材料の熱物性値の経年変化」等を予定している等の説明があった。研究会に関する特集記事やその他特集記事の提案をしていただきたい旨のお願ひがあった。また、学会賞の推薦についてはしばらく学会誌に掲載し、推薦書式をホームページよりダウンロードできるようにすることに決定した。

表彰委員会

藤井表彰委員長より学会賞の推薦をお願いしたい旨の説明があった。特に奨励賞については 35 歳未満の若手研究者を対象としており、多数の推薦をお願いしたいと述べられた。

広報委員会

山田広報委員長より日本熱物性学会ホームページのトップページにある研究室紹介について記事を執筆いただきたい旨のお願ひがあった。また、ホームページの中身を充実させるためにもコンテンツの提案をお願いしたいと述べられた。

データベース

馬場副会長よりデータベースについての説明があり、広報委員会や編集委員会と協力し、さらに使いやすいデータベースにしていきたい旨を述べられた。学会誌にデータベースについての使い方やリンクが載っているページを毎号掲載するのが良いのではないかという意見があった。

7. 熱物性ハンドブック刊行について

馬場副会長より新編「熱物性ハンドブック」刊行に関する報告があった。熱物性ハンドブック編集委員会（長島昭委員長・荒木信幸副委員長）を組織し、3割程度改訂を行い養賢堂から販売した。ハンドブックの発刊を受け、OS やセミナー、ECTP などでの発表を行い普及に努めたい旨の意見を述べられた。また、ハンドブックのデジタル化についても検討していきたい旨の意見も出された。

8. 30周年記念事業の検討

大西会長より30周年記念事業計画について説明があった。学会創立30周年の節目の年に、「日本熱物性研究会」の創立に携わった当時の先生方にお集まりいただき、対談形式で設立の経緯や思いなどを語っていただく懇談会等を開き、最終的には学会誌の特集としてまとめるという方向で今後検討していくことになった。学会設立時の精神や苦労話は非常に興味深いのが、これからの未来についても創立者とともにディスカッションできると良いという意見があった。また、30年間の計測技術やハードウェアの技術変遷等についてお話を伺いたい旨の意見があった。ただし、あまり無理しないで実現可能なものがあると良いという意見も出た。

9. KSTP に関して

宮崎委員より第8回韓国熱物性学会シンポジウムについての報告があった。本シンポジウムには日本から宮崎委員ならびに中別府先生が招待講演を行い、中別府先生が懇親会で乾杯の音頭をとった旨の説明があった。シンポジウム参加者数が40～50名程度であり、発表論文の共著者には日本人の研究者が多かった。今後もKSTPとは連絡を密にし、第29回日本熱物性シンポジウムの日程や場所についてもお知らせするとともに、日本熱物性学会のホームページにKSTPのリンクを貼るということに決定した。

10. 共催・協賛関係、会員異動

長坂事務局担当より、共催・協賛関係ならびに会員異動の説明がされた。

11. その他

長坂事務局担当より、鷗友による預り金残高について報告があった。

以上